

行動指針1 みんなであいさつを交わせる地域をつくろう！



あいさつとは相手の存在を認めること

あいさつは、単に「おはよう」「こんにちは」といった言葉を声に出すことではありません。相手の存在を認めていることを積極的に伝え、良好な人間関係を築くための相手を思いやる行為です。

自分があいさつをして、相手があいさつを返さないと不安に思うことがあります。これは、相手が「自分の存在を認めていない、自分のことをよく思っていないのでは？」と感じるからです。この「思いやりの心」の原点としてのあいさつを、大人も子どもも交わしていきましょう。

大人からのあいさつが大切

子どものあいさつ習慣を定着させるためには、周囲の大人からのあいさつが大切です。また、子どもが地域の人々とあいさつを交わすことは、子どもの地域への愛着を深める効果があります。

家庭や学校はもちろん地域でも、大人から積極的に声をかけ、地域を愛する子どもを育てていきましょう。

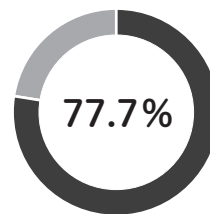
地域の防犯力を高めるあいさつ

地域でのあいさつは、空き巣などの犯罪抑止に有効です。また、子どもと大人が顔見知りになることで登下校時などの子どもの安全を守るために、効果があります。

あいさつに必要なのは言葉だけ、今すぐできる防犯対策です。地域の防犯力を高め、子どもが健全に成長できる環境をつくるためにも、あいさつを交わす習慣を定着させていきましょう。



質問「家庭教育の充実のために家庭が取り組むべきこと」について、「あいさつやマナーなど基本的なしつけを教えること」と回答した18歳以下の子をもつ保護者の割合



(文部科学省(2021)『令和2年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究～家庭教育支援の充実に向けた保護者の意識に関する実態把握調査～」』参照)

行動指針2 みんなで地域をきれいにしよう！



子どもの成長を促すクリーン活動

市内37の中学校区ごとにある青少年対策地区委員会では、学校の周りや通学路等を地域の子どもと大人と一緒に清掃する「クリーン活動」を行っています。

この活動は、環境を美化し、青少年が健全に育つ環境をつくることだけでなく、多世代が参加することにより、子どもの成長を促すことも目的として実施しています。

調査でも、地域のゴミを拾うといった生活体験は、子どもの協調性、自律性、積極性を育むために効果的であることがわかっています。

(国立青少年教育振興機構(2019)「青少年の体験活動等に関する意識調査(平成28年度調査)」参照)

SDGsを自分ごと化するクリーン活動

SDGs(エスディーズ)とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットで採択され、世界中の国々が、2030年までに達成するために掲げた17の目標と169のターゲット(具体的な目標)で構成されています。

クリーン活動は、子どもがSDGsを自分のこととして考えるきっかけになります。多様な人びとが参加し、地域をきれいにするクリーン活動は、SDGsの「目標11 住み続けられるまちづくりを」や「目標12 つくる責任、つかう責任」などを達成するための活動といえます。

活動に参加し、SDGsを自分のこととして考えてみましょう。

地域とのつながりをつくる第一歩

近年、家庭と地域とのつながりが希薄化していると言われています。

クリーン活動は、普段、地域活動になじみのない方が気軽に始められる活動です。青少年対策地区委員会では、新型コロナウイルス対策を講じながら、可能な範囲で実施しています。地域や学校を通じ、定期的に活動への参加を呼びかけていますので、親子で参加してみましょう。



質問「子ども(0～18歳)を通じた地域とのつながりがあるか」について「ない」と回答した保護者の割合

平成27年度 「ない」 24.2%

令和2年度 「ない」 27.9%

(文部科学省(2021)『令和2年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究～家庭教育支援の充実に向けた保護者の意識に関する実態把握調査～」』参照)

親子で家庭の掃除をしてみよう

新型コロナウイルスの影響によっては、大人数が参加したクリーン活動が十分にできない場合があります。

このような時は、親子で、家の周りのごみ拾いをする、家庭のごみの分別をしてみるなど、それぞれの家庭でできるやり方で清掃活動をしてみましょう。

活動を通して、親子のコミュニケーションを深め、子どもが地域や環境の問題を自分のこととして考えられるようにしていきましょう。

お役立ち情報

国際連合広報センター(SDGsについて)

